横浜市立小学校
情報・視聴覚教育　研究主任様

横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育研究部会員様

# メディアワールド

## 情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

～タブレット端末を効果的に利用した授業デザイン～

**定期総会**

新年度役員選出
研究計画
予算案等

**講演会**

「学び支える情報活用能力育成とICT活用」
講師　横浜国立大学教授　野中　陽一　先生

**部会オリエンテーション**

各部会研究テーマ
役割分担

**平成２８年度　４月号**

[　発　行　]
横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育研究部会
会長　　田中　芳夫

４月２７日（水）、技能文化会館にて平成２８年度定期総会と講演会が行われました。田中芳夫研究会長や教育委員会山下様、立田様から研究や情報活用能力を育成する教育の方向性を含めたご挨拶を頂いたあと、本研究会の研究テーマ「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」について説明がありました。本年度は「タブレット端末を効果的に活用した授業デザイン」のサブテーマを加え、研究をすすめることになりました。

---

講演会では「学び支える情報活用能力育成とICT活用」をテーマに横浜国立大学教授の野中陽一先生にご講演いただきました。学習で扱う多くの情報がデジタル化されている現在、具体的にデジタル情報をどのように利用れば学力（資質・能力）の向上に繋がるのかを、例を交えながら教えていただきました。大型テレビ、実物投影機、そしてタブレット型PCなど、学校にはICT環境が整備されつつありますが、それらには教師が指導するためのICT環境と子どもが学ぶためのICT環境の二側面があります。教師が情報を発信するだけにとどまり、子どもたちが主体的に情報を収集したり分析したりして情報を活用する場面が増えていない現状や、子どもが操作スキルを身につけられていないために教科等の目標を達成することができていないという実態もあるとご指摘を受けました。

指導のためのICTから学ぶためのICTへつなげていくには「学習場面・学習形態の工夫」が必要であり、実践例を踏まえて説明していただきました。まずは教師が指導するために発信する情報を、児童の情報活用を意識したものにします。

**例**
**板書＋デジタル情報**
**掛図等＋デジタル情報**
**児童が書いたホワイトボード＋児童のデジタル情報（デジカメで撮った写真）**

デジタルとアナログの特長を生かし、今までアナログでやっていたものの一部をデジタルに変えます。そして教師がデジタル情報を提示するだけでなく、子どもにどうやって情報を提示するかを考えさせることで情報活用能力を伸ばしていくことができるということでした。

子どもたちがデジタル情報を活用できる環境が整ったところで、主体的な学びを促す発問、協働的な学びを生み出す課題、収集・分析したものを表現する活動を充実させられるよう、学習形態を工夫できると良いとして、再び例を示していただきました。

**例**
**グループ活動での情報活用**
**情報の整理（付箋、ホワイトボード）**
**情報の共有（タブレット）**
**プレゼンテーションの練習と振り返り（タブレットで録画）**

このようにたくさんの事例を紹介された後、段階的に情報活用の場面を導入していくこと、学校と家ではデジタル媒体の使用頻度ににギャップがあること、情報活用能力育成におけるカリキュラムを作成することについても言及された後、最後には「教育課程企画特別部会　論点整理」、「高大接続システム改革会議（中間まとめ）」、「これからの学校教育を担う教員の資質向上について（答申）」にある教育の情報の全体像から「学校のICT環境整備及び教員のICT活用指導力の向上等は緊急かつ重大な課題」であるとしてご示唆をいただきました。

総会・講演会後には、野中先生をお招きして懇親会を行いました。たくさんのご参加ありがとうございました。

（研究会HPはこちらから）

研究会HP　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/enkyu/es-ict/

（文発責　仏向小学校　　長崎　伸也）